

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月14日更新

事務事業名		工業用水道事業経理事務				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	3	働く人々が輝き続けるまちづくり			所属部	水道局	課長名	久留 伸二
	施策	12	商工業の振興			所属課	上下水道課	担当者名	菊永 陽
	基本事業	35	企業誘致の促進			所属班	庶務料金班	(内線)	1163
予算科目		会計企業	款	項	目	事業連番	法令根拠	地方公営企業法	
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】	熊本県が平成8年度から造成を開始したセミコンテックパーク（当時：第2テクノパーク）内のインフラ整備として、工業用水道の建設も8年度から始まり、10年4月に一部給水を開始し、12年度に区域全体へ給水開始した。また、18年度には菊陽町が造成した原水工業団地への整備も図った。 これに伴い、9年度から当然地方公営企業法適用の工業用水道事業会計が開始された。 平成9年度は、建設事業のみであったが、10年度1社、13年度3社、14年度1社（現在工業用水休止）、16年度1社、19年度1社、現在計6社に工業用水を供給している。（23年度1社供給予定）
（開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む）	
【業務の流れ】	①工業用水道事業会計における調定・支払事務に伴う、日次・月次・年次の処理及び財務諸表の作成する。 ②毎事業年度終了後、2ヵ月以内に決算を調製し、市長（財政課）へ提出する。 ③一般会計予算の編成方針・要領等を踏まえ、工業用水道事業会計の次年度予算を作成する。 ④必要に応じて予算の補正を行う。
【主な予算費目】	収益的支出：総係費（旅費・負担金・賃借料以外）、減価償却費、資産減耗費、営業外費用、特別損失、予備費 資本的支出：備消耗品費（量水器関係以外）
【意見や要望】	特になし
関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO) ・調定・支払事務、日次・月次報告、財務諸表作成、会計監査の対応 ・予算書の作成及び予算執行状況の把握・管理、決算書の作成 ・各種負担金（セミコンテックパーク関連、消火栓設置など）の請求		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 22年度に同じ
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 伝票処理件数	件	
イ		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
工業用水道事業会計	→ ア 正確に処理した伝票の件数	件
	イ	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
健全に経営するため、正確かつ適切に処理する。	→ ア 伝票を正確に処理した件数の割合	%
	イ	
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠		

(2)各指標・総事業費 の推移				単位	20年度 実績(決算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	22年度 実績(決算)	23年度 目標(当初予算)	24年度 予定	25年度 見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標		ア イ	件	559	605	550	545	550	550	550		
② 対象指標		ア イ	件	552	595	550	534	550	550	550		
③ 成果指標		ア イ	%	98.75	98.35	98.5	98	98	98	98		
投資 入費 量	事業 内訳	財源	国庫支出金	千円								(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円									
		地方債	千円									
		その他	千円	26,478	25,251	21,980	22,918	20,243	25,000	25,000		
		繰入金	千円	1,821	1,212	2,507	168	1,143	3,500	3,500		
		一般財源	千円									
	費	(A) 事業費計	千円	28,299	26,463	24,487	23,086	21,386	28,500	28,500		
		(A)のうち指定経費	千円	28,065	26,230	23,116	22,854	20,050	27,100	27,100		
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0		
	人件費	正規職員従事人数	人	5	12	12	11	12	12	12		
		延べ業務時間	時間	776	1,069	1,000	1,170	1,000	1,000	1,000		
		(B)人件費計	千円	3,104	4,254	3,980	4,820	4,120	4,120	4,120		
トータルコスト(A)+(B)			千円	31,403	30,717	28,467	27,906	25,506	32,620	32,620	0	

事務事業名	工業用水道事業経理事務	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	-------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度的事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した 概ね達成できたが、伝票作成前の他職員の処理もあり、目標達成は厳しい状況である。	☒ 達成しなかった ⇒【原因】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 伝票作成前の他職員の処理もあり、目標達成は厳しい状況であったが、達成率を98%としたため達成する見込みである。	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 適切に処理しているため向上の余地はない。	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 商工振興課の事務事業との統廃合・連携の可能性があると考えられる。	☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 最小限の予算・人員のため削減の余地がない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 最小限の人員のため削減の余地がない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 セミコンテクノパークの立地企業すべてに受益機会があるため公平・公正である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 現段階では見直しの余地はないが、将来的には可能性がある。	☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

目標達成度について、成果指標（伝票を正確に処理した件数の割合）を98.5%にしていたが、伝票作成前の他職員の処理もあり、目標達成ができなかった。
工業用水道事業は、伝票の件数が少ないため、数件で割合が大きく変わってしまう。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 現状を維持する。		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○			低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持	○																						
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								